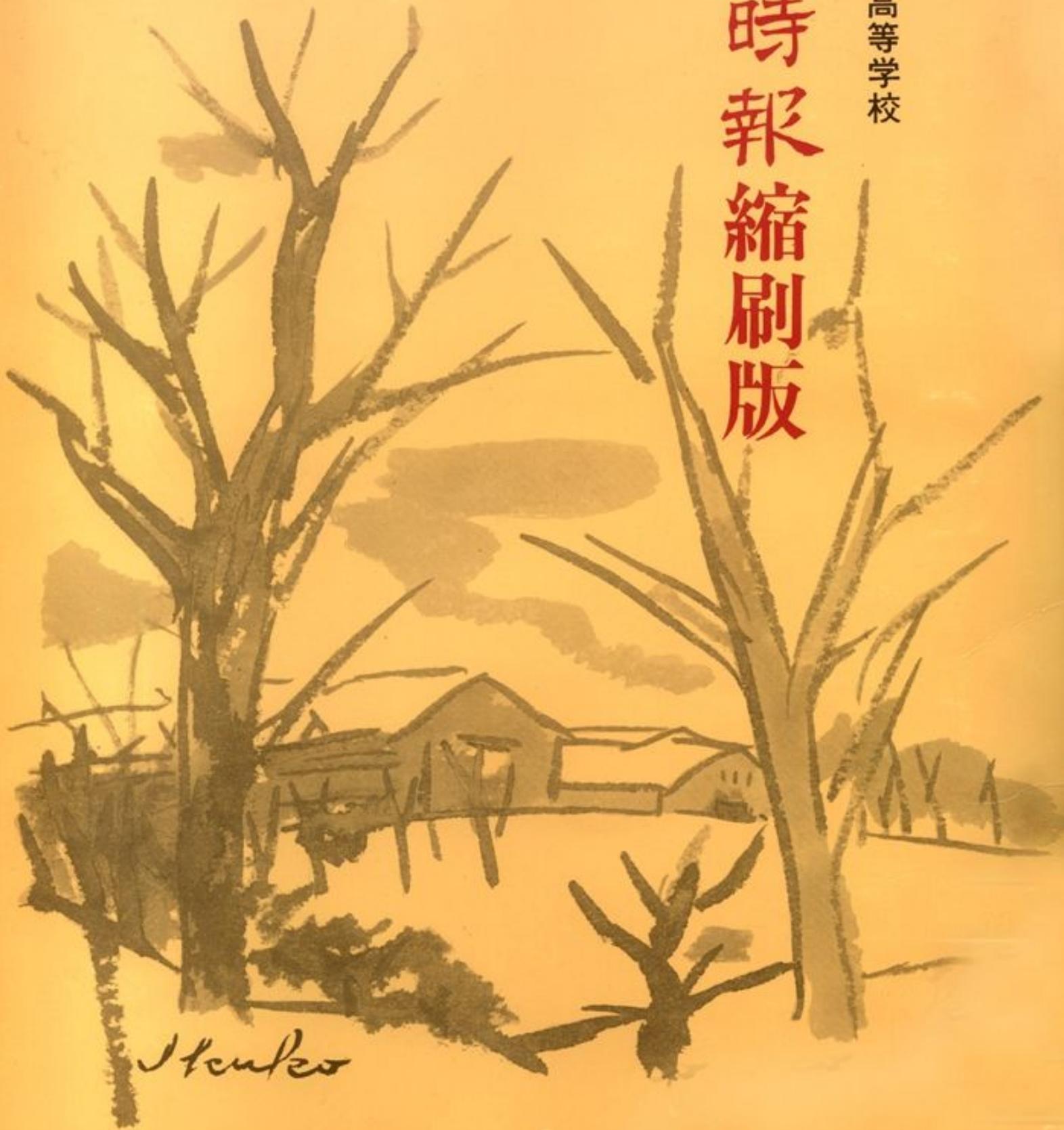


北海道函館東高等学校
創刊百号記念

青雲時報縮刷版



Stevens

青雲台の歩み || その37年 || (年表)

(注) 文中末尾の数字は青雲時報の収録号数を表わす

月	事	項	日本・世界
	函館市立中学校時代 (昭15・4~23・3)		
	昭和十五(一九四〇)年度	函館市立中学校の開校(船見町仮校舎)。初代校長岡村威儀先生。	日独伊三国同盟
	昭和十六(一九四一)年度	初代梅津福次郎翁、市立中学校新校舎建設費として六十五万円を寄付される。	
	5	柳町現在地に新校舎建設敷地を決定。	太平洋戦争
	昭和十七(一九四二)年度	新校地を青雲台と命名。	
	4	新校舎落成し、移転完了。	アッツ島玉砕
	昭和十九(一九四四)年度	市立中学校第一回・第二回卒業式を同時に挙行。同窓会発足。	
	昭和二十(一九四五)年度	太平洋戦争終結。新しい教育のあり方について職員が協議。	原爆投下・敗戦
	昭和二十一(一九四六)年度	全校校友会会議の開催。学校民主化の気運濃厚。学校壁新聞発行。	
	昭和二十二(一九四七)年度	庁立深川高等女学校校長谷地新六先生、本校校長(二代目)に任命される。(着任は23年1月)	日本国憲法施行

月	事	項	日本・世界
	函館市立高等学校時代 (昭和23・4~25・3)		
	昭和二十三(一九四八)年度	新学制により函館市立高等学校と改称。	新制高等学校発足
	7	新制高校開校記念式ならびに梅津翁追悼会を挙行。	
	3	市立高等学校第一回卒業式を挙行。	
	昭和二十四(一九四九)年度		
	4	生徒自治会役員選挙、自治会長に野本義秀君(3年)。(市1)	単一為替レ
	5	下旬頃より高校統合問題しだいに深刻となり、職員・生徒・父兄・同窓生それぞれに緊張感を高め、対応策を協議。	
	6	生物学部編集「青雲時報」第一号発行(13日)。	下山・三鷹・松川事件
	8	G H Q係官ファンズ氏本校視察、自治会のあり方について示唆(市2)	
	9	全道高等学校新聞連盟結成(札幌)、本校も参加。(市3)	
	9	この頃市内各高校で学校新聞の発行相次ぐ。(道立高校「白楊時報」、同夜間部「月刊第一号」、道立女子高「つつじ新聞」、遺愛高校「聖鐘」)(市3)	
	10	綜合文化祭。(市3)	
	11	野球部、第四回団体(東京)に道代表として出場、二回戦で惜敗。	中華人民共和
	10	自治会役員改選、自治会長に亀田羊一君(3年)。(市4)	湯川秀樹ノ
	11	高校統合問題をめぐり全校生徒集会。(市4)	ベル賞
	1	教育界におけるレッドパージ、本校にも影響。	
	1	スキー部、道南高校スキー大会に優勝。(市5)	
	1	道教委より高校統合計画最終案を発表。函館は市立女子高校のみ廃校。	
	2	男女共学全面実施について父兄世論調査(P T A会長)。	中ソ友好相互援助条約

北海道函館東高等学校時代 (昭和25・4)

昭和二十五(一九五〇)年度

4	高等学校再編成により名称を北海道函館東高等学校と改称、同時に男女共学および小学区制を実施。 学校長谷地新六先生、北海道旭川西高等学校長として転任。函館市立旭中学校長藤山兵衛先生、本校校長(三代目)に任命される。旧道立高・道立女子高・市立高・市立女子高四校の二・三年生の学区を決定し、生徒に言渡す(5日)。 新学区による一年生の入学式(15日)。始業式(17日)。対面式(18日)。女生徒身体検査、男子臨休(19日)。男子身体検査、女子臨休(20日)。 生徒会結成準備会(第一回)(25日)。 学校長より全校生徒に生徒会の趣旨を説明(8日)。生徒会規約を生徒大会で可決、認証式を行う(15日)。 生徒会役員選挙(20日)。初代生徒会長に厚谷悌二君(3年)。第一回生徒議会開かれる(24日)。(創)	公職選挙法
5	共学下初の運動会、仮装行列実施。(創) 道教委の総合視察、東高等学校報告書(東高白書)を作製提出 運動部遠征内規決定。(創) 「青雲時報」創刊号発行(11日)。 道南高新連結成のための協議会(本校)。(創) 演劇部初公演、村山知義作「初恋」(公民館)。(創)	東北大イールズ事件 朝鮮戦争
6	全国高校新聞連盟発足(東京)、道南高新連からも代表参加。(2) 新校章を制定(佐藤登教諭を中心とする校章委員会のデザイン)。 国体道予選において本校代表活躍。野球部は北海高を破り優勝(二連覇)、陸上競技部は菊地(走高跳)・種那場(四百米)・佐藤(やり投げ)各選手優勝、体操部(女子)はダンス優勝。(2) 創立十周年記念式を挙る。ひき続き文化祭として展示会、討論会、演劇発表会、音楽会を行う。(3)	警察予備隊
7	道南高新連結成のため(11日)。(創)	公務員のレック ドパージ
8	三年生修学旅行(5泊6日、東京まで)。(4)	
9	生徒会役員改選、新生徒会長に村上彦博君(2年)。(4)	
10	文芸部誌「東叢」第一号発行。(4)	
11	三年生金沢英一君、進学適性検査で全国一の91点。(4)	
12		ドレス来日

昭和二十六(一九五二)年度

2	新校歌発表(作詞 厚谷悌二・作曲 林喬木)。(4)	
3	函館東高等学校第一回卒業式を挙る。	
6	新聞部を「新聞局」と改称し生徒会直属とする。(5) 柔道部新設。(5) 陸上部男子、全道大会で初の総合優勝。(8)(女子の初優勝は28年度)	マッカーサー解任 北海道開発局
8	東高校青雲同窓会定期総会(に森屋)。 早大文学部桜井清彦氏、考古学研究に来校。10月には東大駒井博士、本校考古学室視察に来校、11月には函館新聞記者、考古学部紹介取材のため来校。	
9	生徒会役員、札幌の東・西・南・北各高校を視察。(6)	対日平和条約 日米安保条約
10	新聞局主催の第一回道南中学校招待弁論大会(文化祭行事)。 北海道高校生生物研究発表会(北大)において、二年生近江俊樹君受賞。	
11	生徒会役員改選、新生徒会長に柴田恒雄君(2年)。(7) 規約改正の生徒総会、改正案保留となる。(8)	日米行政協定
2	昭和二十七(一九五二)年度	
4	この月より5月にかけて約一ヶ月間、国立函館大学設置計画をめぐり、学校内外の動きあわただし。(結局は白紙に戻る)。(10) 学校長「講和条約発効について」校内放送。 体育委員会新設。(10)	メーデー事件 破壊活動防止法
5	運動選手出場規定決る。(10)	
7	市立高校授業料5割値上げ決定(4月より300円↓450円)。(10) 標準服の披露説明(男子は詰襟、女子はセーラー)。(11)	
8	陸上部菊地慶一選手、第五回高体連全国大会(松本)で活躍。本校総合二位となる。(11)	
9	室蘭清水丘高生徒会来校。10月には帯広柏葉高生徒会来校。 「青雲時報」第11号(文化祭特集号)、第二回全道高校新聞コンクール(道新主催)および全道高校新聞コンクール(北大新聞会主催)の両コンクールで第三席入選。(12)	保安隊
10	英語部新設。(12)	
11	生徒会役員改選、新生徒会長に島岡清美君(2年)。(12) 本校演劇部の「新釈源氏物語」、第二回全道高校演劇コンクール	米水爆実験

12	で努力賞。(12)	
1	全校生徒に対し、校長より男女交際について特別訓話。 三年生厚谷襄児君、木下尚子君、日本育英会から表彰。	NHKテレビ放送
昭和二十八(一九五三)年度		
4	学級対抗運動競技大会の種目と日程決る(15種目、4~2月)(15)	エベレスト初登頂
6	各種大会参加規定改正(文化部の出場権を明確にする)。(16)	スト規制法
7	東竜太郎氏ら体協視察団、グラウンド視察。(16)	
8	野球部全道大会へ。この年運動部の活躍著しく、卓球・体操・陸上・水泳の各部全国大会に出場。	
9	各大学在学中の先輩と在校生との懇談会。(17)	
11	生徒総会において生徒会規約改正案承認(生徒総会が最高決議機関となる)。(17)	池田・ロバートソン会談
3	社研部新設。(17)	第五福竜丸事件
11	選挙細則成立。(18)	
3	生徒会役員改選、新生徒会長に武山和雄君(2年)。(18)	
昭和二十九(一九五四)年度		
4	道立高校授業料値上げ決定(450円↓500円)。(22)	教育二法案
5	改正生徒会規約による初の予算審議に関する生徒総会。第一回(22日)は流会となり、第二回総会(27日)において本年度予算決定。(22)	平和五原則
6	湯川で大火、罹災生徒の家庭にPTAより見舞金。	防衛庁・自衛隊
8	開校記念行事、斎藤与一郎氏の講演。梅津翁十三回忌、代表参列。卓球部(女子)、全道大会で団体優勝、全国大会へ。	SEA TO
9	第九回国民体育大会ハンドボール会場となる。秩父宮妃御臨席。26日台風十五号来襲。校舎内外の被害は軽微であったが、洞爺丸以下青函連絡船5隻沈没し(死者一四四一名)、市内各所の被害甚大。27日授業なし、被害をうけた生徒の見舞、弔問。28日より10月4日頃にかけて生徒父兄の葬儀につき、学校長以下多数参列。第一回全校マラソン(女子は第一グラウンドで競技)。	鳩山内閣
10	飼育部の牛、第四回市家畜品評会で一等に入賞。	
11	生徒会役員改選、新生徒会長に杉野守彦君(2年)。(25)	
3	北大入試で三十名合格。	

4	杉野生徒会長辞任のため会長選挙実施、新生徒会長に田端義信君(3年)。(25)	「うれうべき教科書」問題
6	バドミントン部女子、高体連全道大会で団体優勝。複で一・二位、単で渡辺公子選手(3年)二位となる。	A・A会議
7	第八回全道高校陸上競技大会兼全国大会予選(第一グラウンド)。生徒総会において生徒会規約改正案承認、生徒会役員の任期十月~九月となる。(27)	四巨頭会談
8	第七回全国高校バドミントン選手権大会(神戸)において渡辺公子選手シングルスで優勝し、祝賀会。	原水禁世界大会
9	第一回青雲吹奏楽団(OB)演奏会(HBC劇場)。	
10	創立十五周年記念式を挙行。ひき続き四日間文化祭および運動会。	
2	生徒会役員改選、新生徒会長に小倉日支三君(2年)。(29)(30)	
3	放送教育研究会、「高校生と家庭生活」と題して生徒・父兄・教育委員参加の討論会。(29)	スターリン批判
3	第八回北海道バドミントン選手権大会(本校)。	
昭和三十(一九五五)年度		
4	新一年生より一間口増の九学級。	新教育委員会
5	新教育課程実施。社会および理科が四科目中三科目の選択制になったほか、漢文・芸術・家庭・商業(35年度以降廃止)および英語の各科目組合せによる選択制・コース制を採用。	憲法調査会
7	臨時生徒総会において生徒会役員会の不信任成立し総辞職。29日に新役員選出の投票実施、新生徒会長に阿部好一君(3年)。(30)	
8	この学期より通知箋100点法となる(30点未満は赤点)。(30)	
9	道立移管問題に関する第一回のPTA委員会。	砂川事件
10	第七回青雲文化祭。第一日目(28日)夕方から第一回行燈行列。行燈行列実施にあたっては指導部会議・職員会議・生徒集会などを通じて慎重に準備。(32)	
2	サッカー部・体操部女子、道代表として第十一回国体(兵庫)に出場。サッカー部は第三位となる。(32)(33)	日本国連加盟
3	生徒会役員改選、新生徒会長に岡部明宏君(2年)。(33)	岸内閣
3	北大中野秀五郎教授の講演「受験数学の効果的学習法」。	
3	北海道学芸大学(現教育大学)に百十四名合格。	

昭和三十一年（一九五七）年度

- 4 PTA総会において道立移管の強力推進を決議。道立移管期成会をつくり、以後秋頃にかけて移管運動活発。移管のための施設整備費として生徒一人当り一ヶ月50円を徴収。(36) (結局33年度末頃には白紙に還る。(42))
- 生徒総会において会計監査委員会設置を決定。(35-5)
- 生徒心得の表示。(35-5)
- 剣道部新設。(35-5)
- 6 流感まん延のため月末より7月初めにかけて合計一週間臨時休校。山岳部、日高山脈縦走達成。
- 7 下駄ばき登校を禁止し、靴ばきに切りかえ。
- 10 生徒会役員改選、新生徒会長に木村清孝君(2年)。(36)
- 2 第五回函館市内高校冬季柔道大会(第一体育館)本校優勝。(37)

昭和三十三年（一九五八）年度

- 4 第一・三グラウンドの整備開始(高体連ハンドボール全国大会に備えて)。(39)
- 5 高文連新聞部道南支部結成大会(本校)。(39)
- 7 第一回校内合唱コンクール。
- 8 音楽・書道の特別教室増築落成。
- 9 第九回全国高校ハンドボール選手権大会(本校会場)。最終日、高松宮御臨席。
- 9 第九回青雲文化祭。初のフォークダンスパーティ行われる。(40)
- 10 生徒会役員改選、補充選挙の結果新生徒会長に本庄聡君(2年)。(42)
- 11 図書館開架式となる。(41)
- 2 大掃除でワックス塗り(ワックス使用の初め)。(41)
- 2 二代目梅津福次郎氏より梅津賞永代基金等の寄付をうける。(43)
- 3 弓道部・珠算部新設。

昭和三十四（一九五九）年度

- 5 3年生島本千恵子君、リンカーン生誕百五十年記念エッセイ・コンテストで全道一席に入選し、札幌アメリカ文化センターより、「コンプトン絵入り百科事典」(英文)を学校に寄贈される。
- 6 女子更衣室完成。靴箱も設置予定。(44)
- 9 南部忠平・敦子両氏による陸上競技指導会(第一グラウンド)。

三悪追放声明
人工衛星第一号
勤評反対闘争
フルシチョフ首相

フランス第五共和政
一万円札
キューバ革命
防衛二法案

伊勢湾台風

昭和三十五年（一九六〇）年度

- 10 第十回青雲文化祭、美術部OB展も参加。(45)
- 10 退職された長谷川晶先生、美術行脚の北海道一周の壮途に。(45)
- 11 生徒会役員改選、新生徒会長に木村清順君(2年)。
- 11 定例生徒議会、昼休みに開催と決定。(46)
- 11 本校の乳牛三頭売却、十三年余の飼育終る。(47)
- 12 美術・工芸の特別教室増築落成。(47)
- 2 生徒会規約改正、選挙法変る。(47)
- 3 学校安全法施行。(48)
- 3 クラブ全廃再編成論、部長会議で賛成多数。(48)
- 3 児童愛護班結成。(48)
- 3 学校長盛山兵衛先生退職(在任十年)、新設ラ・サール高等学校教頭として赴任。19日退任式後、一・二年生道路に整列し先生を見送る。(48)

昭和三十五年（一九六〇）年度

- 4 北海道砂川南高等学校長石黒信太郎先生、本校校長(四代目)に任命される。(49)
- 4 18日北大村岡夏雄教授の講演「安全保障条約について」
- 6 20日高校生の統一行動についての指導部会。
- 6 この前後、日米安全保障条約改訂阻止運動の盛り上りに刺激された高校生のデモ参加をめぐり、職員の中で論議活発。20日発行の青雲時報(四十九号)の記事によれば、生徒アンケートの七割が新安保反対を表明。学校側はすでにこの月の初め頃より数度にわたる職員会議を通じて生徒指導の方法を討議、政治教育の一環として前記講演会を催す一方、印刷物の配布・デモ参加等については一方的禁止でなく説得的指導を行うことを決議し努力。(49)
- 8 剣道部富樫選手、高体連全国大会(高知)へ出場。(50)
- 8 野球場グラウンドの整備完成し(二十周年記念事業)、七高校を招いて招待野球。(50)
- 9 東・西昇降口脇に生徒用自転車置場新築。(50)
- 9 23日創立二十周年記念式典挙行。「二十周年記念葉」を発行。22日・29日には文化祭諸行事と運動会を実施。(50)
- 10 音楽部、全国唱歌ラジオコンクール函館地区大会で一位となり、全道大会へ参加。(50)
- 10 生徒会役員改選、新生徒会長に深栖久幸君(2年)。(50)
- 10 第15回国体(熊本)へバドミントン(女子シングルス)、テニス

初の教育白書

全学連羽田デモ事件

韓国で反政府暴動

安保新条約強行採決
安保反対闘争激化

中ソ論争
池田内閣

浅沼社会党委員長暗殺

12	(男子ダブルス)、体操(女子団体)、ハンドボール(女子)の各部出場。50	
1	1年生長谷川喜幸君、他の山岳部員二名と横津岳に登山、吹雪のため遭難し死亡。(翌36年6月には遭難地に記念碑建立)。51 53 本校設立の功労者斎藤与一郎氏(創立当時市長)逝去。 臨時議会で「クラブ全廃再編成案」否決。	ケネディ大統領 人間衛星船ボストーク
昭和三十六(一九六一)年度		
5	考古学部、名称を郷土史研究部に変更(10月には部報「青雲台史」創刊)。 山岳部、知床連峰縦走。54 美術部、第二回全道高校美術展で全出品作品入選。54 2年生白川亮借君、フルブライト資金によるアメリカ留学へ出発。 山岳部主催による初の校内合同登山(横津岳)。54 生徒会役員改選、新生徒会長に小杉博美君(2年)。54 2年生の修学旅行、初めて四国へ渡る(金刀比羅宮まで)。 靴箱完成、使用開始。	防衛二法改正
12	道教委高校生急増対策計画発表。本校は三十八年度より一問口増の十字級編成の予定。	三無事件
2	初代校長岡村威儀先生逝去(神戸)。55	日米教育文化 会議
3	進学状況、創立以来の合格率。56	工業高専
昭和三十七(一九六二)年度		
5	校舎(図書館および視聴覚教室)増築、故岡村先生の記念碑建立等について検討。	
6	生徒会役員および図書委員、旭川北・深川西・札幌西各高校を視察。57	
8	郷土史研究部、松山の厚沢部川流域で遺跡調査。58	
9	陸上部信太洋子選手、八百メートルに全道新記録で優勝し、山村・宮下両選手と共に高体連全国大会(大分)へ出場。59 バドミントン部(男子)、道代表として国体(岡山)へ出場し、団体四位。59	
10	生徒会役員改選、会長候補不信任のため空席のまま発足。副会長小嶋創君(1年)が以後一年間役員会代表。後さらに会計加藤君が途中で辞任し役員六名となる。58 60 初代校長岡村威儀先生の胸像(レリーフ)武内収太氏作品)除幕	キューバ危機

11	式を夫人を迎えて挙行。58	
1	函館北高校(市立)新設に関する種々の問題起る。 図書館および視聴覚教室新築落成。58 北海道女子大学函館分校山岳部学生旭岳で遭難、十名死亡(本校卒業生五名)。岩井・倉田両教諭救援のため旭川へ出発。 美術部吉田俊悦君(2年)、全国年賀状版画コンクールで文部大臣賞。また前年にひき続き二年連続学校賞を受賞。59 この年度の後半、規律委員会が遅刻調査と防止に活発な活動。59	貿易自由化 88 第一回人づく り懇談会 自衛隊にミサ イル部隊 石炭合理化
昭和三十八(一九六三)年度		
4	新一年生より一問口増の十字級編成。 新教育課程実施、芸術科を除き全科目必修制となる。60 函館北高等学校開校。	高校社会に倫 理・社会
5	家政部、地区代表として全道家庭科クラブ研究発表会(俱知安)に出場。61	
6	生徒協議会長と1年生議員との懇談会。61 理想的なHR運営として一年I組注目される。61 ハンドボール部男子、初の全道優勝。 生徒会役員改選、新生徒会長に新蔵博雅君(2年)。東高ルネサンス"をスローガンとする。	三國部分核停 条約
11	書道部、伊勢神宮奉納全国書道展に全員(十九名)入賞。62 新造ヨット青雲号の入魂式。 第一回能研テスト実施。本校生徒七名受験。62 高文連地区郷土史考古学部会設立。 生徒会細則規定特別調査委員会が発足。 公立普通高校の入学試験を総合選抜制で実施。63	三池炭鉱爆発 事故 ケネディ暗殺
昭和三十九(一九六四)年度		
4	美化委員会の提唱でフラワライニングづくり。64 第一グラウンド埋設の放送ケーブル切断事件。64 66 生徒会役員会の提起による規律問題についてのLHR討議。64 全道高校ハンドボール大会当番校、本校男子優勝。 野球部九年ぶりに全道大会出場、準決勝へ進出。66 高文連全道高校新聞大会およびコンクール、函館で開催。64 全道高校駅伝大会当番校。	第一回生存者 叙勲 中国文化大革命 不況ムード
8	父兄同伴の場合に限り生徒は純喫茶店の出入りを許されることと	トンキン湾事 件 東海道新幹線

インフルエンザA2型流行による欠席・罹患生徒激増のため、1月末より2月初めにかけて四日間臨時休校。(77)

昭和四十三(一九六八)年度

本年度新入生より理数科一学級設置、普通科は九学級となる。

26日に生徒総会。新設の生徒会入会金をめぐり審議未了となり、

5月4日再開、新年度予算案を可決。(77)(78)

16日午前9時49分ごろ(二時限開始直前)十勝沖地震襲来(震度5)。生徒・教職員全員無事避難したが、校舎は内壁・集合煙筒を中心にかんりの被害発生、安全を考えて生徒を下校させる。17日、前日夜の大きな余震で三年F組横の集合煙筒が落下し、渡り廊下の屋根・床板をつきぬけて地面にめりこむ。危険が予想されるのでこの日も授業をやめ生徒下校。18日大掃除。(78)

応援団細則改正(各クラスより一名のリーダーを選出する)。(78)

梅津福次郎氏より奨学基金として五万円寄贈。すでに39年および40年にも五万円ずつの寄贈あり、当初の十万円と合わせ梅津奨学金の永代基金二十五万円となる。

開道百年記念スポーツ大会(本校)。

サッカー部・ハンドボール部(男子)高体連全道大会で優勝、全国大会へ。(78)

プール完成。(78)

第十九回青雲文化祭第一日、開祭式のと金丸英夫教諭による講演「風土と生活の歴史性」。またこの年より合同発表会を従来のHBC劇場より青雲記念館へうつす。(79)

青雲記念館裏に整備予定の小公園および池の名称、公募で決定(「ひんがしの杜」「信太郎池」)。(79)

吹奏楽部、吹奏楽コンクール地区大会で優勝。全道大会で二位。(79)

市立学校教員の宿直全面廃止。44年2月からは日直も廃止、それ

にともないクラブ活動監督当番制を実施。(79)

函館湾内でヨットてんぷく事件、乗組生徒は無事。生徒の喫茶店出入りを許可。(79)

9月の生徒会役員改選で立候補者四名のみ、会長をふくむ四ポストの補充選挙を二度にわたって実施。11日ようやく全役員揃う。

新生徒会長に金沢郁哉君(2年)。(79)

遠征規定改正案成る。実施は新年度から。学校長石黒信太郎先生勇退される(在任九年)。

沖繩で戦後最大の県民大会

ベトナム和平パリ会談

小笠原諸島正式復帰

小学校新指導要領(神話導入)

日本最初の心臓移植
水俣病を公害病に認定

米北爆停止

川端康成ノーベル賞

昭和四十四(一九六九)年度

北海道夕張南高等学校校長横田淳一先生、本校校長(五代目)に任命される。

教員の宿日直全面廃止に関連し、生徒の下校時間を改正(夏季は六時、冬季は五時)。(81)

生徒総会において前年度決算承認されず、審議二日間にわたる。(80)

小公園「ひんがしの杜」完成。

全道高校バドミントン大会(本校当番校)。

美術部、北海道高校美術展(十周年記念)にデザインの部特選など、十一名が入賞。同時に最優秀学校賞を受賞。

1年生岩崎睦君、函館地区高校弁論大会で努力賞。

生徒会役員改選、新生徒会長に坂本和彦君(2年)。(81)

美術部主催の凧あげ大会(五稜郭公園)、マスコミが取材。

21日の国際反戦デー地区集會に高校生参加。この前後より校内における一部生徒の政治活動が目立ち始め、いわゆるC闘争問題をめぐり職員会議で活発な論議。(81号特集参照)

陸上部岡村和幸君(3年・ハンマー投げ)およびサッカー部、道代表で団体(長崎)へ出場。(81)

規律委員会、制服制帽問題について全生徒アンケート。(84)

3年生出町恵子君、有島文芸賞に入賞の報告。

マンガ同好会発足。(82)

H R運営委員会に代りH R実行委員会発足。(83)

10日第二十回卒業式。卒業証書授与は全員による堂々めぐりを止め、クラス代表者にしたほか、祝辞・式歌の一部省略などにより簡素化。

昭和四十五(一九七〇)年度

本年度より普通科一学級を理数科に転換(普通科八、理数科二)。(81)

単位認定必要時数に関する内規を改訂実施。

服装問題研究委員を委嘱。

放送室移転。また夏休み中、応接室・教育相談室完成(いずれも三十周年記念事業)。

従来の花いっぱいポスターコンクールに代り「校内美化ポスターコンクール」(46年度からは「環境美化ポスターコンクール」となる)。(83)(86)

公害白書

いざなぎ景気新記録

アポロ11号月面着陸

ホーチミン大統領の死

沖繩返還に関する日米共同声明

日本万国博

日航機ハイジヤック

日本人のエベレスト初登頂

6	社研部主催の制服・制帽についての公開討論会。全道高校サッカー大会（第一グラウンド）、決勝戦はNHKテレビで中継放送。	安保条約自動延長
7	服装についての新规定を実施。内容に制帽の着用は自由、登校時は制服着用、校外での服装は自由とする。 ⁸⁴ 第一回函館地区高文連祭（市民会館）。	ヘドロ公害問題
8	第二十一回青雲文化祭。創立三十周年を記念し、前夜祭に花火打上げ。また行燈行列に初の職員行燈（ねぶた）登場。開祭式には同窓会副会長古伏協清隆氏による講演「創立当時の思い出」。 ⁸⁴ 同窓会主催「恩師を囲む会」（函館山展望ハウス）。	ナセル死
9	二代目梅津福次郎氏逝去。 応援団、生徒会外局となる。 ⁸⁴	
12	生徒会役員改選、立候補者会計二名のみ。10月にかけて二回にわたる補充選挙の結果全役員が揃う。新生徒会長に小笠原公宏君（2年）。 ⁸⁴ 社会活動部、年末助け合い運動および東パキスタン救援募金に参加。	ドゴール死 インド・パキスタン戦争
2	国際ロータリークラブ主催の「世界理解による世界平和」ポスターコンクール（アメリカ）で、3年生皆月勉君の作品が特選に入賞。 ⁸⁵	
3	青雲時報の報道によれば、4月～1月の10ヶ月間に延べ一万人の遅刻者。 ⁸⁵ 初の校史「三十年史」発行。	
昭和四十六（一九七二）年度		
4	5月にかけて二度にわたる生徒総会。第二回目は規約改正案承認のほか、一般質問でビリヤード問題が出る。 ⁸⁶	沖繩返還協定 調印
6	規律委員会の調査団、ビリヤードについて実態調査。 ⁸⁶ 女子応援団活動開始。 ⁸⁶	
7	陸上部、高体連全道大会で各種目に活躍（二百M・四百M・四百MH・ハンマー投げ・やり投げに一三位）。全国大会（四国）に出場。 ⁸⁶ 社研部主催の学習会「安保と沖繩」。 放送局、NHK放送コンテストで報道番組部門・アナウンス部門に優勝。全道大会（札幌）に出場。 1年生、初の宿泊研修（二泊三日、有珠青少年の家）。	ばんだい号遭難

8	生徒議会でクラブ・同好会細則承認。軟式野球同好会・人形劇同好会発足。将棋同好会、クラブへ昇格。 ⁸⁷ 青雲吹奏楽団、第三回定期演奏会。吹奏楽部も協賛出演。 第二十二回青雲文化祭。展示に従来のクラブのほか、クラスの参加が始まる。 ⁸⁷	全日空機と自衛隊機の接触墜落
9	臨時生徒総会。生徒会費の60円値上げ（新年度より200円）を承認。ビリヤード問題の調査報告と質疑。 ⁸⁷	中華人民共和 国国連に加盟
10	生徒会役員改選、補充選挙でも会計一名埋らずそのまま発足。新生徒会長に中野英之君（2年）。 ⁸⁷ 食堂のメニュー10円ずつ値上げ（49年2月には20円、50年10月には30～60円の値上げ）。 ^{87 92 97}	
11	吹奏楽部、吹奏楽コンクール全道大会（札幌）で高校B編成の部に最優秀賞を受賞。 ⁸⁷	
12	生徒議会議事法改正、議定足数が一・二年生議員の四分の三以上でもよいことになる。 ⁸⁷ このころ「ものみの塔」信者の生徒による体育科柔道授業拒否の問題起る。	
1	スキー部女子二名、地区大会で優勝し全道大会へ出場。 ⁸⁸ 札幌冬季オリンピック聖火リレーのパレードに本校生徒代表も参加。	イギリスEC に加盟
2	道立高校授業料、新年度より五割値上げ決定（800円→1200円）。 ⁸⁸ 空手同好会発足（6月にはフォーク同好会も）。 ⁸⁹	札幌オリンピ ック 高松塚古噴壁 画発見
昭和四十七（一九七二）年度		
4	生徒総会の一般質問に制服問題が出る。 ⁸⁹	ニクソン訪中
5	珠算部廃止、28年以来的歴史を終る。 ⁸⁹	沖繩復帰
6	初の全校観劇会、青年劇場「ロミオとジュリエット」（市民会館）PTA便り「青雲台」第一号配布。 ⁸⁹	田中内閣
7	山岳部、大雪山を縦走。 ⁹⁰	田中首相訪中 国交正常化
8	青雲時報八十八号、高文連第十六回全道高校新聞研究会・コンクールで優秀校（十校）に入選。 ⁹⁰ 規律委員会、服装自由化問題について小委員会を設け生徒の意向を調査することに決定。	田中首相訪中 国交正常化 ミュンヘン・ オリンピック
9	17日出発予定の2年生見学旅行、台風二十号の襲来のため中止。11月23日やり直し旅行出発。 ⁹⁰	中国からパン ダ到着
10	生徒会役員改選、新生徒会長に竹内清君（2年）。 ⁹⁰	

